

どろっと まにわ 真庭



楽しそうにエコバッグ作りに取り組む参加者

自分たちにできる環境保全を 道の駅醍醐の里エコバッグ教室



優しいタッチでまにぞうをデザイン



これは何ごみに分類されるでしょうか

1月19日、道の駅醍醐の里でエコバッグ教室が開かれ、醍醐の里に農産物を出荷している生産者や市内の子どもたちなどがオリジナルデザインのエコバッグを作りました。この教室は「環境保全も身近な一歩から」をキーワードに、環境問題について改めて考えようと醍醐の里が初めて開きました。参加者は市役所環境課の職員からゴミの分別などについて話を聞いた後、レジ袋の代わりとなるエコバッグを作りました。

高校生が清酒造りを学ぶ 真庭高校食品科学科 清酒仕込み体験

12月25日、真庭高校食品科学科の生徒が、勝山の御前酒蔵元辻本店で清酒仕込みを体験しました。この体験は、地元の清酒造りを学ぶ事で、地域産業への理解を深めようと毎年行われています。この日生徒たちは、炊きたての酒米を手で冷ます作業や、冷ました酒米をタンクに入れ、均等にかき混ぜる作業を行いました。清酒が完成するのは3月の予定で、ふれあい市や文化祭などで販売することになっています。



蒸し上がった酒米を冷ます作業をする生徒たち



ゆずの香りに包まれて温泉を楽しむ人たちに女将も笑顔

砂湯でゆず湯のサービス 湯原温泉露天風呂ゆず湯

12月22日は、一年のうちで最も昼の時間が短い『冬至』でした。これに合わせて、湯原温泉の露天風呂・砂湯では、ゆず湯のサービスが行われました。この日に向けて湯原観光協会のメンバーが、ゆず畑でゆずを収穫し、当日は旅館の女将たちが「露天風呂」の語呂合わせにちなんで626個のゆずを浮かべました。訪れた人たちは、湯船に浮いたゆずの香りを楽しみながら、ゆつたりとお湯につかっていました。

12/20 お花が楽しみ

布野きちよさん（杉山）が12月20日に100歳を迎えられました。体を動かし、趣味の編み物で指先を動かしていたことが長寿の秘訣。お花を育てていたこともあり、お花を見ることを楽しみに過ごされています。



12/23 年末に響き渡る歓喜の歌

エスパスホールで第九演奏会が開かれました。東京混声合唱団からソリスト4名を迎え、総勢132人で美しく力強い演奏と合唱を披露。この日訪れた約500人の観客は会場に響き渡る歓喜の歌声に聴き入っていました。



12/29 年末子ども夜警

下中津井の上町自治会、下町自治会で毎年行われている年末子ども夜警が行われました。地域の子どもたちが町内を歩きながら、拍子木を打ちならし、「火の用心」と声を上げて注意を呼びかけました。



1/1 お正月恒例行事で親睦を深めよう

津田地区で新春マラソン大会が開催されました。地区の人達が顔を合わせて親睦を深めることが目的で、今年で40回目。正月休みに帰省し参加している人もいて、世代や地域を超えた交流の場となっています。



1/8 魚を食べて元気に過ごす

齋藤たみゑさん（禾津）が12月1日に100歳を迎えられました。長寿の秘訣は、よく食べ、よく眠ること。記憶力が良く、出かけたときは、車から眺める風景を楽しみながら、思い出を話されるとのことです。



講師の方に見守られながら考える子どもたち

12月26日、交流施設「えがお商店」で中和子ども版なりわい塾が開かれ、中和地域の子どもを中心に25人が参加しました。子どもたちは、50年間地元で猟をしていた講師から体験などを聞いたあと、草木を育てる水や土、草木を食べる獣といった繋がりに感謝の気持ちを表す、中和小学校の取り組み「ありがたのつながり」について考えました。そして自然界で関わり合って生きていることを改めて確認していました。

「ありがたのつながり」を学ぶ
中和子ども版なりわい塾



空高く揚がる風を作るぞ

1月12日、親子凧作り教室が檜邑地区で開かれ、2才から小学生までの子どもたちとその保護者、合わせて36人が参加しました。地域のおじいちゃんに作り方を教えてもらいながら檜西和紙に版画や絵筆で好きなイラストを描いたあと、竹ひごを骨組みにして凧を作りました。主催したのは檜邑地区の地域づくり活動を行う、きらきら計画実行委員会です。12月の竹馬作りに続いて2回目の教室の開催でした。

檜邑で親子凧作り開催
親子凧作り教室